



お取引をカスタマイズ。

GFT は、取引でご利用いただけるテクニカル・インディケータを85 以上提供しています。各指数の詳細は以下の通りです。

Average Directional Index

(平均方向性指数=DMI/ADX)

特徴:

平均方向性指数(ADX)により、チャートにトレンドが表われていることを確認の上、トレンドの強弱を判断することができます。

動作概要:

- 0~100の数値で評価。
- 一定の入力期間(初期設定は14日)でトレンドの強さを測定します。
- インディケータの数値は通常20~40の間で推移。
- 20以下の場合:ADXはあまりトレンドがでていないことを示唆。
 - 20以上の場合: チャート上の価格変動でトレンドが形成されていることを示唆。
 - 40以上の場合: 非常に強いトレンドを示唆。
 - 40から下降した場合:トレンドは弱くなっている。
 - 60を超えることは稀。

パラメータ:

DealBook® では、ADX の算出に使用する日数を変更できます。最初に DealBook® を起動した時点では、ADX は14日に初期設定されています。

Average True Range

(アベレージトゥールレンジ=平均レンジ幅/ATR)

特徴:

ATR は、ボラティリティの決定や、トレンドのトップやボトムを特定する場合に使用します。

動作概要:

- レンジ幅に基づきます。
- ATRの計算方法:
 - 直近の高値および直近の安値
 - 直近の高値および前回の終値
 - 直近の安値および前回の終値
- レンジ幅の値は、設定された入力期間 (初期設定は14日)に渡って平均されます。
- 平均は単一線で描画され、通常はチャートの下のサブグラフに表示。
- ATR が低い場合、その通貨ペアの価格が安定しており、市場のボラティリティが低いことを示唆。

- ATR が高い場合、市場のボラティリティが高いことを示唆。

使用目的:

- 価格の動きにおけるトップとボトムの予測 (通常は、ボラティリティが低水準にあるときに相場の高値や安値を示現)。
- 現在の ATR にある値(通常 2 または 3)を乗じたレートでトレーリングストップを設定できます。現在の価格からこの値を減じて逆指値を設定して利用します。

パラメータ:

DealBook® では、ATRの算出に使用する日数を変更できます。最初に DealBook® を起動した時点では、ATRは14日に設定されています。

Bollinger Bands

(ボリンジャーバンド)

特徴:

ボリンジャーバンドは、色々な意味で取引に有効で、相場の高値、安値を予測することができます。ボラティリティを可視化し、トレンドが継続するか、反転するかの判断を容易にします。

動作概要:

- 最も一般的に使用されているテクニカルインディケータの一つです。
- 次の 3 つのバンドで構成されます:
 1. ミドルバンド(中心線)は、入力期間20が初期設定で、この間の単純移動平均線に基づいて計算。
 2. アッパーバンド(バンド上限)は、ミドルバンド+2標準偏差で、終値がどれだけ平均に近いを示唆。
 3. ローアーバンド(バンド下限)は、ミドルバンド-2標準偏差。
- これらのアッパー・ローアーバンド内で価格の変動を予測:
 - 価格がアッパーバンドにクロスする場合は、現在価格は高い(買われ過ぎ)と考えられます。
 - 価格がローアーバンドにクロスする場合は、現在価格は低い(売られ過ぎ)と判断。
 - このような場合には、まもなく市場が反転する兆しと判断。
 - 価格がミドルバンド付近で推移しているときは、平均値に近い水準で取引していると判断。
- 市場のボラティリティを監視。
 - バンド間の距離が広い場合は、ボラティリティが高いことを示唆。
 - バンド間の距離が狭い場合は、市場のボラティリティが低いことを示唆。

パラメータ:

DealBook® 360では、ボリンジャーバンドのパラメータをカスタマイズすることができます。通常は終値が選択されますが、高値・安値・始値・終値を選択でき(DealBook® を最初に起動した時は、終値が自動的に選択されています)、DealBook® 360 と DealBook® WEB いずれも、期間設定とバンドの変数を変更することができます。

Commodity Channel Index

(コモディティチャンネルインデックス=商品チャンネル指数/CCI)

特徴:

コモディティチャンネルインデックスは、周期的な価格の動きに基づいて、通貨ペアが「買われすぎ」または「売られすぎ」になる時期の予測を助ける「オシレーター」です。

動作概要:

- 実際の価格がサイクルにどの程度近いかを予測。
- 次の 4 つの式を使って計算します。
 1. ティピカルプライスを計算: 選択された期間(入力の期間14が初期設定)の、(高値+安値+終値)÷3で計算
 2. 1. の、20日単純移動平均(SMA)を計算。
 3. 2. 絶対偏差の平均を計算。
 4. 1. ~3. の計算値からCCIを求める:(本日1. - 本日の20日間単純移動平均2.) ÷ (0.015定数 ÷ 平均偏差3.)

- DealBook® では自動的に計算されます。

パラメータ:

DealBook® では、CCI の算出に使用する日数を変更できます。期間14が初期設定。

Dynamic Momentum Index

(ダイナミックモメンタムインデックス/DMI)

特徴:

DMI は、現在の価格が買われ過ぎ・売られ過ぎかを判断します。このインディケータをチャート下部のサブグラフに表示して、価格動向を見ながら新規・決済の取引を判断します。

動作概要:

- 買われ過ぎ・売られ過ぎのタイミングを予測。
- 通貨ペアの終値が平均値を超えた回数と、下回った回数を比較して計算。
- 1~100の数値で評価。
 - 70以上は買われ過ぎ。
 - 30以下は売られ過ぎ。
- 市場のボラティリティに基づく時間枠。
- 通貨ペアのボラティリティが上昇すると、DMI は計算に使用する期間の数を減らします。
- ボラティリティが低下すると、DMI は期間の数を増やします。結果として、DMI は市場の変動に敏感になり、RSI より迅速に変化を表示します。

パラメータ:

DealBook® 360では、DMI のパラメータをカスタマイズして、終値、始値、高値または安値に基づいて指標を計算することができます(期間14が初期設定)。DealBook® WEB では、DMI が使用する日数を変更できます(期間14が初期設定)。

Momentum

(モメンタム)

特徴:

モメンタムは、直近の終値と指定した期間中の終値を比較、変化の価格差に着目しています。チャートの下のサブグラフに表示され、価格の継続・反転が予測でき、相場の勢い(モメンタム)を図る目的で考案されたものです。

動作概要:

- 本日の終値 - 指定した期間(n)日前の終値を計算。
- トレーダーがトレンドのペースを判断し、トレンドの反転の可能性を予測するのを助けます。
- 買われすぎ、売られすぎの条件の特定を助けます。

パラメータ:

モメンタムのパラメータをカスタマイズできます。サブグラフをパーセント・モードで表示するかどうかを決定することもできます。入力の価格は、始値・高値・安値・終値に設定でき、DealBook360、DealBookWEB共に、モメンタムを使用する日数を変更できます。期間14が初期設定。

Moving Averages

(移動平均)

特徴:

このタイプのインディケータでは、特定の時間枠に渡って価格を平均して、市場の動きを単一の線に準準化しています。移動平均にはいくつかのタイプがあります - それぞれの移動平均は、異なる計算方法を使用して算出しています。トレーダーはこれらを使用して市場の動きを分析しトレンドの変化を確認することができます。

動作概要:

- 通貨ペアが下降トレンドか、上昇トレンドかを判断するのに役立ちます。
- 各種の移行平均は、それぞれ異なる計算方法を使用します:
 - 単純移動平均(SMA)は、指定された期間内の終値はすべて同じ比重がかかっており(指定期間内であれば100日前も10日前も前日もデータとしての比重は同じ)、指定期間が長ければ長いほど相場の動きに対し、移動平均にスモーキング効果が加わるようになります。
 - 指数移動平均(EMA)は、同様に計算しますが、より最近の価格に重みを与えます。

パラメータ:

移動平均の設定は、選択したタイプによって異なります。DealBook® 360では、SMAのパラメータをカスタマイズして、終値、開始値、高値または安値に基づいて平均を計算することができます(DealBook® を最初に起動した時は、終値が自動的に選択されています)。DealBook® 360およびDealBook® WEBでは、時間枠も変更できることに加えて、インディケータの変位やペースも設定できます。EMAでも、価格、時間枠および変位を指定できます。

Moving Average Convergence/Divergence

(移動平均の収斂および拡散/MACD)

特徴:

MACD は、トレーダーが取引の開始、終了の時期を予測するのに役立ちます。このインディケータは、トレンドが反転する時期の判断でも使用できます。

動作概要:

- 指数移動平均 (EMA) インディケータに基づいています。
- 速い12日EMAの値から、遅い 26日EMAの値を減じて計算します。この値は、単一の線として表示される、9日EMAと比較されます。
- MACDトレンド線が単一線の上に上昇 - その通貨ペアの買い時を示しています。
- MACDトレンド線が単一線の下に下降 - その通貨ペアの売り時を示しています。

パラメータ:

大半のトレーダーが 12 日および 26 日 EMA を使用しているのに対して、DealBook® では使用する日数を変更して EMA を計算できます。単一線の計算で使用する日数もカスタマイズできます。DealBook® 360では、選択して、終値、開始値、高値または安値に基づいて平均を計算することができます (DealBook®を最初に起動した時は、終値が自動的に選択されています)。

Relative Strength Index

(相対力指数/RSI)

特徴:

RSI は、通貨ペアが買われすぎであるか、売られすぎであるかを予測します。このインディケータを使って、新規のポジションメークと決済に利用します。

動作概要:

- 通貨ペアの値上がり幅の平均と、値下がり幅の平均を比較。
- 平均は 1 から100の範囲で表示。
 - 値がベースライン 80を超えると買われすぎ。
 - 値がベースライン 20を下回ると売られすぎ。
- 通常は 期間9,14,25(7,10,20)の終値を使用。
- 計算に含める日数が多くなるほど、値の変動は少なくなります。

パラメータ:

インディケータの設定では、DealBook®のRSIの計算で使用する日数を変更できます。同様に、チャート上に表示される買われすぎ/売られすぎのベースラインの値も変更できます。DealBook® 360では、高値・安値・始値・終値の数値でRSIを計算することができます (DealBook®の初期設定では、終値が自動的に選択されています)。

Slow Stochastics

(スローストキャスティクス)

特徴:

ストキャスティクス・オシレーターは、通貨ペアの終値と、一定の期間における価格範囲のどこに位置するかを比較して表示します。このイン

ディケータを使用して、トレンドの勢いと方向性を測定すると同時に、いつ反転するかを予測します。次に、新規ポジション・メークや決済のポイント予測します。

動作概要:

- トレンドが持続した期間を分析して、通貨ペアの勢いと方向性を測定します。
- 2本の線を使用: 価格チャートの下のサブチャートに表示され、%Kおよび%Dで表示されます。
 - %K線は、終値で期間14の価格範囲と比較します。
 - %D線は、基準線で、%Kの期間5の単純移動平均を使用します。
- 0から100の間の範囲で移動します。
- %K または %D が 20を下回ると、その通貨ペアは売られすぎです。
- %Kまたは%Dが80を上回ると買われすぎです。
- %K線が%Dとクロスすると、買いのサインです。
- 同様に、%Dが%K とクロスすると、売りのサインです。

パラメータ:

DealBook®はスローストキャスティクスを計算するのに使用する日数を自由に変更できます。%Kおよび%Dのスロー期間の値と同様に、サブチャートに表示される買われすぎ/売られすぎのベースラインの値も変更できます。DealBook® 360では、高値・安値・始値・終値を用いて平均を計算することができます。(初期設定は、終値が自動的に選択されています)。

Linear Regression

(線形回帰分析)

線形回帰分析は、複数の変数における相関関係を直線モデルによって説明しようとする分析手法です。インディケータ、過去の特定期間について線形回帰トレンドラインのエンドポイント値の軌道を結びます。線形回帰線は、散らばりの合計を最小化する直線です。所定の期間を満たすのに十分な値が与えられるまでは、一連のデータの開始における線形回帰インディケータは定義できません。

期間シフトがゼロである場合の時系列移動平均および時系列予測と同じ。

Accumulation Swing

(アキュミュレーションスイングインデックス)

アキュミュレーションスイングインデックスは、当日の相場の四本値と前日の相場とを比較し本質的な相場の動きを捉えよう(表現しよう)と考案されたインディケータです。インディケータ、スイングインデックス (S²)に基づくオシレーターで、当日高値が前日の SIを超えると、買いシグナルが出され、当日安値が前日のSIより低くなると、売りシグナルが出されます。

アキュミュレーションスイングインデックスは実際の相場動向を示そうとしているので、かなり実際の価格に似た動きになります。このインディケータによって、従来の支持線/抵抗線の分析を使用できます。通常の分析にはブレイクアウト、新高値や新安値、および乖離が影響します。

Aroon (アロオン)

アロオンは相場のトレンドの是非、強さを測るために考案されたインディケータです。サンスクリット語で(古代・中世のインドの公用語)夜明けの光(Dawn's Early Light)という意味があり、トレンドの始まりと夜明けを結びつけこのインディケータをアロオンと命名したといわれます。インディケータ通貨取引ペアがトレンドに沿って動いているか、それているか、あるいはトレンドがどの程度強いかを判断するために使用します。通貨取引ペアの価格が上昇している場合、期間内の終値は期間の終わりになるほどインディケータに接近し、逆も同様です。アロオンインディケータは、高値(上昇の場合)または安値(下降の場合)までにどれくらいの時間が経過したかをパーセントで示します。

アロオン(アップ)およびアロオン(ダウン)と一緒に移動している場合、明確なトレンドはありません(揉み合い相場)。アロオン(アップ)が50より下なら、上昇トレンドが勢いと方向性を失いつつあることを示しており、アロオン(ダウン)が50より下なら、下降トレンドが勢いと方向性を失いつつあることを示しています。アロオン(アップ)またはアロオン(ダウン)が70より上なら、その方向での強いトレンドを示しており、値が30より下なら、トレンドが逆方向になりつつあることを示しています。

アロオン・オシレーターの場合、正の値は上昇トレンドを、負の値は下降トレンドを意味しています。オシレーターの絶対値が高いほど、トレンドを強く示していることになります。

Chande Momentum (シャンデモメンタム)

シャンデモメンタムは、モメンタム系のテクニカルインディケータで、RSIに似たインディケータですが、モメンタムを測る際に分子に上昇の値と下降の値両方を用いるため、RSIより純粋なモメンタムを測るインディケータと考えられます。このオシレーターを取引シグナルとして使用するには2つの方法があります。一つ目は所定の通貨の買われすぎ、または売られすぎのレベルの測定で使用する方法。二つ目は、オシレーターが移動平均線を上へクロスしたら買いと判断し、オシレーターが移動平均線を下へクロスしたら売りと判断する方法です。

シャンデのモメンタムインディケータは、所定の期間で価格が上昇した日数の合計、上昇値幅の合計(高値-安値)、同じ期間で価格が下降した日数の合計、下降値幅の合計(高値-安値)で構築されています。次に、この線の指数移動平均を、単一の線として、オシレーターに重ねます。オシレーターは2つのパラメータを必要とします。価格の変動幅を合計した期間、および移動平均の期間です。

Chikou Span (運行スパン)

『Ichimoku(一目均衡表)』を参照してください。

Commodity Selection Index (コモディティセレクションインデックス /CSI)

コモディティセレクションインデックス(CSI)はモメンタム系のインディケータで、短期のお取引において最も資金効率のよい商品(=為替においては取引通貨に相当)の選択をするために用いられているインディケータの1つです。

CSIの数値が高い場合、その商品のトレンドおよびボラティリティの特性が強いことを示しています。トレンド特性は計算におけるディレクショナル・ムーブメント係数で決まり、ボラティリティ特性は平均レンジ幅(ATR)係数で決まります。

DEMA (ディーイーエムエー/二重指数移動平均)

ディーイーエムエーは、移動平均の1つです。DEMAの“D”はダブルの略ですが、単純な移動平均というわけではなく、シングル、ダブル指数平滑平均を組み込んだ移動平均です。この2つの構成要素とのレスポンスを比較した場合、どちらか一方より、合成されたDEMAは遅れの少なく、トレーディングのスタイルに応じて単純移動平均の代わりとしてDEMAを用いることもできます。DEMA(二重指数移動平均)や、単純指数移動平均と二重指数移動平均の独自の組み合わせで、各インディケータを個別に使用するより、反応の遅れを抑制することができます。DEMAは移動平均が使用できる場合に使用できます。

Detrended Price Oscillator (デイトレンドプライスオシレーター)

デイトレンドプライスオシレーター(DPO)は相場のサイクルをより分かりやすく捉えられるよう考案されたインディケータです。トレンドを排除した価格オシレーターという意味になります。価格のトレンドを排除することで、価格変動のサイクルに惑わされず、買われすぎ・売られすぎの状況を他のインディケータより容易に識別することができます。トレンドを除去した価格によって、サイクルや買われすぎ/売られすぎレベルの識別が簡単になります。

長期サイクルは、一連の短期サイクルによって構成されています。長期サイクルを構成しているこうした短期サイクルを分析すると、長期サイクルにおける主要な転換点を識別するのに役立ちます。DPOは、価格からこうした長期サイクルを除去するのに役立ちます。

DPOを計算するには、n期間の単純移動平均を作成します(ここで“n”は移動平均の期間の数です)。次に、終値から“(n / 2) + 1”日前の移動平均を減じます。その結果がDPOです。

Directional Movement—ADXR (ディレクショナル・ムーブメント—ADXR)

ADXRは平均方向性指数(ADX)のモメンタムの変化を定量化するもので、ADXの2つの数値(現在の数値とn期前の数値)を合計し、2で割ることによって求めます。このような平滑化を追加的に行うことによりADXRはADXの変動から受ける影響を多少抑えることができます。このインディケータはADXと同じように解釈され、数値が上昇するほどトレンドは強まることを意味しています。

ADXRの下降はトレンドが弱くなり反転につながる徴候を示しています。ADXRは市場にトレンドがないことや、進行中のトレンドの低下も特定できます。

平準化した計算で得られることから、ADXRは短期、迅速な反転にはあまり敏感ではない点でADXとは異なっています。トップおよびボトムの過剰な変動を補正するために開発されており、トレンドに従った戦略で使われるとき、特に役に立ちます。動向の徴候としてボラティリティに依存している戦略は、動向が必ずしもボラティリティを示すわけではない点を考慮していないかもしれません。ADXRはトレンドの強さに関する情報を提供し、トレンドの有無の間で変動する不安定な市場での取引のリスクを管理するのに役立ちます。

Envelope (エンベロープ)

エンベロープは、移動平均を中心線に上下にバンドを設けた代表的なトレーディング・バンドの1つです。エンベロープは、所定の為替レートが平均価格の上下に変動する取引範囲を示すのに使用されます。この場合、為替レートに対する指数移動平均を取り、次に当日の平均の固定パーセントを追加および減算して取引バンドを適用します。これによって、価格の5%が平均以上、5%が平均以下と計算されます。

Fast Stochastics (ファーストストキャスティクス / ファスト)

ストキャスティクスは過去の一定期間における最高値と最低値のレンジの中で、現在の価格がどこに位置するのかわかるものです。ストキャスティクスは、0~100%の間で変動し、価格が過去の最高値に近づくほど100に近づき、逆に最低値に近づくほど0に近づき、直観的に判断しやすいオシレーターです。

ストキャスティクスは、 $-K(\%K)$ 、 $-Fast(Fast\%D)$ 、 $Slow(Slow\%D)$ の3種類で表記されます。現在の価格が高値圏・安値圏かを示すことで、買われすぎ・売られすぎを判断することができ、転換点を特定するのに役立ちます。 K 、 D 2本の線のクロス時が売買のポイントとなり、押し目買い・戻り売りの判断として有効です。

Forecast Oscillator (予測オシレーター)

予測オシレーターは、回帰分析をベースにしたインディケータです。予測の対象となる終値と、時系列予測線によって得られる値との差を(比較)割合としてパーセンテージで表したインディケータであり、線形回帰ベースのインディケータの拡張。対象の価格と時系列予測オシレーターによって示される価格のパーセンテージを比較したものです。

現在の価格が予測オシレーターより高い水準にあるときは、%Fの線はプラスの数値となり、今後の上昇が予測できます。逆に現在の価格が、予測値を下回ればマイナスの数値となり、今後の下降が予測できます。実際の価格と予想値が同じ場合には、ゼロを示します。

Inertia (イナーシャ)

イナーシャは、通貨取引価格のモメンタムを、そのボラティリティに基づいて測定するために使用します。相対ボラティリティインデックスの副産物であるイナーシャは、単純に平準化した RVI です。

イナーシャは0から100のスケールで測定します。インディケータが50を下回ると、イナーシャは負(マイナス)です。指標が50を上回っていれば、正のイナーシャであると言えます。イナーシャが正であれば、長期的な上昇トレンドであることを示しています。イナーシャが負であれば、長期的な下降トレンドであることを示しています。

Intraday Momentum (日中モメンタム/ IMI)

日中モメンタム・インデックス(以下、「IMI」)は、RSIとロウソク足分析の組み合わせです。

IMIはRSIと同様に計算されますが、始値と終値の関係を使用して、上昇であるか下降であるかを判断します。終値が始値より高ければ上昇です。始値が終値より高ければ下降です。

RSIの場合と同様に、指数70以上は買われすぎで下落することを示唆し、指数30以下では売られすぎで上昇することを示唆しています。他の同様のインディケータと同じく、取引前に外為市場の傾向を定量化する必要があります。

Ichimoku (一目均衡表)

一目均衡表インディケータは、日本における代表的なチャート分析手法の1つです。一般的なチャート分析は主に価格を用いますが、一目均衡表は更に時間的な概念を盛り込んだ総合的なチャート分析法です。相場のトレンド、支持および抵抗のレベルを決定し、買いおよび売りのシグナルを表示します。日・週足の時間軸でこのインディケータが最もよく機能すると言われています。

パラメータは、異なる4つの時間枠を使用します。このインディケータの構成は以下の通りです。

- 転換線は、最初の期間での価格の平均値を表示します。この時間枠での最大値と最小値の合計を2で割って計算します。
- 基準線は、二番目の時間枠での価格の平均値を表示します。
- 先行スパンAは、前の2本の線の間の中間点を、二番目の時間枠の値だけ前進させて表示します。
- 先行スパンBは、三番目の時間枠の価格の平均値を、二番目の時間枠の値だけ前進させて表示します。

- 遅行スパンは、現在のロウソク足の終値を、二番目の時間枠の値だけ後退させて表示します。先行線との間の距離は他の色で画面上に陰影が付けられ、「雲」と呼ばれます。価格がこれらの線の間にある場合、市場にはトレンドがないと考えられ、雲の端は支持および抵抗のレベルを反映します。

価格が雲の上にある場合、その上の線は支持の最初のレベルを示し、二番目の線は二番目の支持レベルになります。価格が雲の下にある場合、下の線が最初の抵抗レベルとなり、上の線が二番目の抵抗レベルとなります。

遅行スパンの線が価格のチャートを下から上へ突き抜けた場合、買いのシグナルを意味します。上から下へ突き抜けた場合は、売りのシグナルです。

基準線は、外為市場における動向のパラメータとして使用されます。価格が基準線より上にある場合、価格は上昇する可能性が高いと考えられます。価格がこの線と交差する場合、トレンドの変化があると考えられます。

基準線の使用の別バージョンとして、シグナルの発行があります。転換線が基準線を下から上へ抜けると買いシグナルとなり、転換線が基準線を上から下へ抜けると売りシグナルになります。転換線は、外為市場のトレンドのインディケータとして使用されます。この線が上下に動けば、トレンドが存在します。転換線が水平である場合、外為市場は転換点に近づいています。

Kairi

(乖離)

乖離は、モメンタム系のインディケータの1つで当日の終値(または高値、安値、始値のいずれか)と単純移動平均との差を割合として表したインディケータです。主な方法として、トレンドを分析する(上昇、下降またはレンジ)ために、また、買われすぎ、売られすぎのシグナルとして使用することができます。

Keltner Channel

(ケルトナーチャンネル)

ケルトナーチャンネルは、2本の上下バンドと移動平均線を使ったインディケータです。中心値に修正移動平均上下2本のバンドをプロットし、平均から上下のバンドまでの距離が、基調となる価格のボラティリティに従って変動する方法で、ボリンジャーバンドに似ています。計算で標準偏差を使用するボリンジャーバンドとは違って、ケルトナーバンドはATRを使用します。

平均レンジ幅/ATRは、J. Welles Wilder Jr. によって開発され、前日終値から当日始値までの発生し得るギャップを含めて、1日の実際の高値と安値を表示します。これは、先物や株式市場で利用していたツールであり、前日終値と当日始値にはより大きな意味があります。こうして、平均レンジ幅/ATRは以下の中で最大のものを使って計算されます:

1. 当日高値 - 当日安値
2. 前日終値 - 当日安値
3. 前日終値 - 当日高値

ただし、前日終値と当日始値に大きな違いがあることは稀であるため、外為市場ではこうしたギャップが発生することは通常はありません。従って、ギャップが有効になるのは、週末を超える場合や、不安定な市場状況である場合だけです。

一連のレンジ幅計算から修正平均が得られます。高値・安値範囲がかなりのレベルにある場合は上下のバンドは平均から離れていき、一連の安値範囲パーによってバンドは平均の内側へ移動します。市場のボラティリティが上昇および下降した場合は、それぞれケルトナーバンドが自動的に拡大・縮小します。

ケルトナーバンドは中心値から上下2本あります:

1. 強固な市場では、上下のバンドがほぼ支持線および抵抗線であると考えられ、取引はレンジトレーディングが優位であると考えられます。
2. 価格が明確にブレイクして、どれかのバンドの外側で終わる場合、ブレイクが発生した方向のトレンドには高いリスクがあると考えられます。
3. 中心の移動平均線は、トレンドが移動している場合、逆指値の水準として利用できます。

どんな場合でも、一つのインディケータだけで取引を始めないで、モメンタムインディケータ(例、RSI、ストキャスティクス)などの他のインディケータを活用して、シグナルを確認することが推奨されます。価格パターンを参考にすることも必要です。

デフォルトのパラメータ:期間 = 12 (平均に対する測定期間をコントロール)

係数 = 1 (平均の周囲でのバンドの配置をコントロール)

プロット:上部 KC 上バンド線、中央 KC 中央移動平均、下部 KC 下部バンド線

計算式:

平均値:高値 + 安値 + 終値 /3

移動平均値:高値から安値を引いた10日間の単純移動平均値

中間KC(移動平均値) = “期間” 長修正移動平均(平均値を使った期間の移動平均値)

アップパー-KCv = Mid KC + “期間” 長平均 レンジ 幅 x 係数

ロウワー-KCv = Mid KC - “期間” 長平均 レンジ 幅 x 係数

Kijun Sen

(基準線)

『Ichimoku(一目均衡表)』を参照してください。

Linear Regression Slope

(線形回帰スロープ)

線形回帰スロープは、過去のレートに基に市場のトレンドや可能性がある転換点を示唆し、データをライン化したもので、現在のレートが更新されるたびに変化します。

このインディケータは、過去の為替レートを使用して、近い将来での潜在的な市場価値を予測し、いつトレンドが変化するかを判断します。一部のテクニカル分析では、価格がこの線形回帰線の上に上昇したり、下に下降すると、買われすぎ・売られすぎを示唆し、相場が反転する傾向を示します。

Mass Index

(マスインデックス)

マスインデックスは、高値から安値までの値幅に着目し、その収縮推移を基にインディケータが構成されます。マスインデックスはトレンドのある市場の方向性をモニターし、トレンドの反転を示唆します。

マスインデックスが設定ライン(27.0)を越え、続いてトリガーのライン(26.5)を下降するときに、トレンドが反転する可能性を示します。マスインデックスはトレンドを明確にする機能は無く、トレンドが反転する可能性を示唆するだけです。

Median Price

(中位の価格または中間価格)

中位の価格は、その日の高値と安値の中間を計算します。平均あるいは平均価格と言われます。

中位の価格は、その日のレートを簡素化して表示します。その日の終値ではなく、値幅に関する情報を含んでいるので、終値のボラティリティの一部を平準化するのに使用できます。

Moving Average Exponential

(指数移動平均線/EMA)

指数移動平均線は、単純移動平均が、過去のレートの単純平均で計算されているのに対して、過去の値動きを考慮し、直近の値動きをより多く反映するよう調整されているという違いがあります。

直近のレートに比重を高めるように計算され、全てのデータ(期間)をもとに算出されており、指数移動平均を用いることによりデータをよりスムーズに処理することができるため、大勢的な相場のトレンドをつかむことができます。計算式は、 $2 / (n + 1)$ (nは1日目の計算で用いた単純移動平均の期間)を用います。

注: 指数平滑平均は全てのデータ(期間)をもとに算出されており、ある一定の期間に限った単純移動平均とは異なります。

移動平均はトレンドの確認ができることより、抵抗線としても利用することができます。

為替レートを移動平均と比較することでトレンドがサポートされているのか、ブレイクされようとしているのかを判断することができます

Moving Average Modified (修正移動平均)

修正移動平均は、数学的な技法であり、平均が価格の動きにより反応するようにします。平均には、通貨取引ペアの上昇または下降する価値にキャッチアップできるための勾配係数が含まれます。修正移動平均は、単純移動平均と似ています。修正移動平均の最初のポイントは、単純移動平均の最初のポイントと同じように計算されます。ただし、すべての以後のポイントはまず新しい値を追加して、次に結果の合計から最後の平均を減じて計算されます。

Moving Average Simple (単純移動平均/ SMA)

単純移動平均インディケータは、期間における通貨の終値を合計して、次に期間の数の合計で除算して計算します。時には、算術移動平均と呼ばれるSMAは、基本的には期間での平均価格です。

計算方法は、単純に指定した期間の終値を指定した期間で割ることにより、その期間中の終値ベースの単純平均値を算出したものです。単純平均では、指定された期間内の終値はすべて同じ比重がかかっているため、指定期間が長ければ長いほど相場の動きに対し、移動平均にスムージング効果に加わることになります。

最も一般的な移動平均の解釈の仕方として挙げられるのが、相場が移動平均の上(またはサポートされる形で)を推移している場合=上昇トレンド(買い建てが有効)とみなし、逆に相場が移動平均を下回って(または移動平均がレジスタンスとなっている形で)推移している場合=下降トレンド(売り建てが有効)と解釈する方法です。

Moving Average Triangular (三角形移動平均/ TMA)

三角移動平均は加重移動平均の一種で、中央の要素に最も大きな重みがかかることが特徴です。計算法は簡単に単純移動平均を2回適用して計算するだけです。

移動平均は、一般的にはトレンドの識別に使用されます。移動平均の方向に注意が必要であり、価格や移動平均の相対的な位置にも注意が必要です。移動平均の値(方向)が上昇しており、価格が移動平均の上(位置)にある場合、上昇基調であることを示しています。移動平均の値が下降し、価格が移動平均より下にある場合、下降基調であることを示しています。置き換えられた移動平均では、現在のバーの上の前バーまたは後のバーの移動平均の値が描画されます。

Moving Average Weighted (加重移動平均)

加重移動平均は、所定の期間での以前の値に、現在の値を含めて、一緒に平均を計算します。これらの値には、最も古い値がウエイト1、次の値がウエイト2、そして現在の値まで順番に加重平均されます。

所定の期間を満たすのに十分な値が与えられるまでは、一連のデータの開始における移動平均は定義できません。

注: 現在の値に対してより複雑な重みを付ける場合は、指数移動平均を使用します。加重移動平均を2つ、または、それ以上の加重移動平均を平均化することも可能です。

移動平均は、たとえば日々の価格などのように、未加工で、ノイズが多いデータを平準化する場合に便利です。価格データは毎日大きく変化しており、時間が経過すると価格が上昇しているのか、下降しているのか、分りにくくなります。価格の移動平均を調べれば、隠れたトレンドの、より一般的な状態を把握できます。

移動平均からは、トレンドの把握や、データがトレンドに抵抗しようとしているかどうかを確認でき、新規ポジション作成やポジション決済の判断に役立ちます。データを移動平均と比較して、トレンドを支持しているか、あるいは新しいトレンドが始まろうとしているかを判断することがよくあります。

Parabolic SAR (パラボリック SAR/ PSAR)

パラボリックSARインディケータは、為替レートと時間の関係に基づいています。時間/価格ベースのストップを活用して、ポジションをストップおよびリバースする時期を決定するために使用します。

パラボリックSARに達すると、現在のポジションを決済し、逆に新規ポジションを作ります。主にトレンドのある市場で使用され、常にポジションを持つことが一般的です。このインディケータは、ストップ・ポイントを決定して、いつポジションを反転させて、反対方向で取引を行うか予測するためにも使用されます。このインディケータは、チャート化した場合に、パターンがパラボラまたは雲形定規に似ている事実から名前が付けられました。

Percent Change (変動率/ PCC)

変動率のインディケータは、直近の終値と比較対象とするn日前の終値の価格差の変化を累積し、描画したインディケータです。デフォルトの設定では、チャート上の当日の終値と前日の終値との変化の割合を前日のPCC値に加算してプロットしていきます。このインディケータを用いることにより、簡単に前日比ベースでの価格の推移を捉えることができ、現在までの流れを掴みやすいインディケータといえます。

Percent of Resistance (抵抗率/POR)

抵抗率は、通貨の終値を所定の期間におけるその為替レートのレンジと比較するオシレーターです。

Percent R (パーセントアール/ PCR=%R)

%Rのインディケータは、トレンドが強く現れていないレンジ相場に用いるのが最適と考えられています。また中長期的な上昇トレンドの中の、短期的な押し目買い、または、中長期的な下降トレンドを形成している相場の中の、短期的な戻り売りのポイントを探るツールとしても、有効と考えられます。

買われすぎと見る場合は、%Rが80のラインから上(80~100の値のレンジ)の高水準の圏内で推移している時です。売られすぎと見る場合は、%Rが20のラインから下(0~20の値のレンジ)の低水準の圏内で推移している時です。

Price Channel (プライスチャネル/PC)

プライスチャネルは、指定された期間の数値により高値と安値を計算し、プライス上に描画します。為替レートが上のバンドより上に移動すると、上昇が強いサインであると考えられます。逆に、バンドを下回り移動すると、売りが強いサインであると考えられます。チャネル線の中で取引が継続する動きの後は、強いブレイクアウトを示している可能性があります。

このインディケータは、デフォルトでは表示「されません」。距離の入力を正の数に変更すると、プロットが左に移動します。距離の入力を負の数に変更すると、プロットが右に移動します。

Price Oscillator (価格オシレーター/プライスオシレーター/Price Osc)

価格オシレーター (PO) は2つの異なる期間の移動平均の差をもとに作られたモメンタム系のインディケータの1つで、MACDとよく似た計算方法が用いられています。MACDは一般的に12、26の2つの期間をどのような場合においても用いますが、価格オシレーターは特にこの2つの期間に縛りはなく、自由に設定できます。

0のラインが売買のシグナルとなり上抜ければ買い/下抜ければ売りとなります。

Relative Volatility (相対ボラティリティ/レラティブボラティリティ/ RVI)

RVIは、RSIを応用したインディケータで、相場のボラティリティが拡大傾向にあるか縮小傾向にあるかを計るインディケータです。また RVI は他のモメンタム系等のオシレーターのコンファメーション(確認)のために用いられることが多くあります。その理由として、RSI、ストキャスティクス、モメンタム等のオシレーターは全て価格そのものから算出されているため、似通ったシグナルをどうしても出しやすい傾向があるからです。その観点から RVI の枠組みはRSIと同じですが、基礎となっているデータが異なりますので、コンファーマー・インディケータとして用いることができます。

RVIの数値が50以上になると、相場のボラティリティ拡大を示唆。

RVIの数値が50以下になると、相場のボラティリティ縮小を示唆。

Rate of Change (レートオブチェンジ/ ROC)

ROCとは、計算期間内の価格の変化率を表したテクニカルインディケータで、利用することで、逆行現象、相場の勢い(強弱)、反転の目安となる水準を見ることが出来ます。モメンタムとほぼ同じ動き方をします。

ROCが100以上の時は、強気相場と判断でき、ROCが100以下の時は弱気相場と判断できます。

Senkou Span (先行スパン)

『Ichimoku(一目均衡表)』を参照してください。

Standard Deviation (標準偏差/StdDev)

標準偏差は、ボラティリティのインディケータです。平均から、どの程度幅広く値が拡散しているかを測定します。拡散とは、実際の値と平均値

の間の差です。実際の価格と平均価格の間の差が大きいほど、標準偏差は高くなり、ボラティリティが高くなります。実際の値が平均値に近いほど、標準偏差は低くなり、ボラティリティは低くなります。

Standard Error Bands (標準誤差バンド/SE Bands)

標準誤差バンドは、トレンドとそのトレンド周辺のボラティリティを表示します。このインディケータでは、3つのプロットが生成されます。真ん中のプロットは、21期間の線形回帰線の終了値です。上のプロット、上部標準誤差バンドは、2つの標準誤差を線形回帰線の終了値に追加した結果です。下のプロット、下部標準誤差バンドは、2つの標準誤差を線形回帰線の終了値から減算した結果です。終値で大きな変化があると、線や誤差バンドの値に大きく影響するので、回帰線の3期間を単純移動平均と標準誤差で描画します。

標準誤差バンドはボリンジャーバンドに似ていますが、解釈は異なります。標準誤差バンドは、現在のトレンドの方向およびその周辺のボラティリティを示します。ボリンジャーバンドは、価格の平均周辺のボラティリティを示します。

標準誤差バンドを使用する1つの方法は、価格が動き始めた(上方向または下方向へ)時に絞られるバンドを探すことです。これが発生すると、価格がトレンドを示しやすくなると言えます。トレンドが強い間は、バンドも絞られたままであることがよくあります。同時に、トレンドの方向によって、線形回帰線は上昇または下降を続けます。バンドが広がり始めると、価格が下がり始める徴候です。この後、線形回帰線が水平化し、反転し、トレンドがもうすぐ終了するシグナルとなります。

STARC Bands (STARCバンド/ストラー平均レンジチャネル/ SB Bands)

STARCバンドは、単純移動平均を囲むチャネルを作成します。作成されるチャネルの幅は、平均範囲の期間によって変化します。作成されるチャネルの幅は、平均範囲の期間によって変化します。それが名前の理由です(“ST”は「ストラー」で、“ARC”は「Average Range Channel」です)。STARCバンドは、ボリンジャーバンドと同様の方法で、堅調な市場では締め、不安定な市場では緩みます。ただし、終値をベースとするのではなく、STARCバンドは平均レンジ幅をベースとしているので、外為市場のボラティリティに関してより高い関連性を示します。ボリンジャーバンドが価格の動きの継続を示しているのに対して、STARCバンドは通常の価格の動きに対する上値および下値の限度を表示します。

Swing Index (スイングインデックス/Swing)

スイングインデックスは、0から100までのスイングインデックス値をアップ・パーに、0から-100までのスイングインデックス値をダウン・パーに割り当てます。このインディケータは、現在のパーの始値・高値・安値・終値ならびに前回の始値および終値を使用して、スイングインデックス値を計算します。スイングインデックスが0を超えれば、短期的に価格は上昇すると考えられます。反対に、スイングインデックスが0を下回れば、外為市場の価格は下降すると考えられます。スイングインデックス値が大きくなれば、為替レートは上昇し、スイングインデックス値が小さくなれば、為替レートは下降すると考えられます。

TEMA

(三重指数移動平均)

TEMAは、少し誤解されやすく、単に「移動平均」の「移動平均」の移動平均というわけではありません。単一指数移動平均、二重指数移動平均、および三重指数移動平均の独自の組み合わせであり、3つの構成要素単独の場合より若干の遅れを示します。TEMA は、従来の移動平均を利用し、価格データやその他のインディケータを平準化するために使用できます。

Tenkan Sen

(転換線)

『Ichimoku(一目均衡表)』を参照してください。

Time Series Forecast

(時系列予測/TSF)

時系列予測(以下、「TSF」)は、最小二乗法を使用する線形回帰に基づいています。線形回帰は、将来の外為市場の価値を過去の価値との相対で予測する統計的なツールです。TSF は、トレンドの上昇または下降のバイアスを決定して、その計算を将来へ外挿することで、将来の外為市場の価値を「予想」しようとします。例えば、価格のトレンドが上向きなら、TSFは現在の価格との相対で価格の上昇バイアスを論理的に決定し、その計算を前方に外挿します。外為市場の価格がインディケータより上なら、トレンドは上昇であると考えられます。外為市場の価格がインディケータより下なら、トレンドは下降であると考えられます。さらに、多くのアナリストは、価格がインディケータの上下に移動すると、価格は線に引き戻される傾向があると考えています。TSF インディケータも、現在のトレンドをモニターして、方向に変化があるかを決定しようとします。

時系列予測インディケータは、2つの重要な相違を除いて、線形回帰インディケータに似ています。最初の違いは、TSFはその線を BarsPlus入力で指定されるバーの数を乗じて前方(チャートの右)へプロットすることです。二番目の違いは、TSF で使用するデフォルトの長さの入力の値が、プロット線を前方に延長するので、はるかに短いことです。トレンドやアクティビティを分析する場合に、長さの入力が大きくなるとプロットが非常に複雑になり、長さが短い場合ほどは、信頼性が無くなります。

TRIX

TRIXは、買われすぎ、売られすぎを特定するために使用するオシレーターです。モメンタムインディケータとしても使用できます。多くのオシレーターと同様に、TRIXもゼロ線の周囲で変動します。オシレーターとして使用する場合、正の値は買われすぎであることを示し、負の値は売られすぎであることを示します。モメンタムインディケータとしては、正の値は勢いと方向性が強くなっていることを示し、負の値は弱くなっていることを示しています。多くのアナリストは、TRIXがゼロ線の上に抜けると買いシグナルであり、ゼロ線の下へ抜けると売りシグナルであると考えています。また、価格とTRIXのダイバージェンス(逆行現象)は、転換点を示唆していると考えられます。

他のトレンドに従うインディケータと比較した場合の、TRIXの2つの主な利点は、為替市場のブレを抑制する点、ならびに遅行インディケータではなく先行インディケータである傾向性です。三重指数平均の計算を使用して外為市場のノイズをフィルタし、外為市場の方向が変わるシグナルとなり得る、マイナーな短期サイクルを除去します。それぞれのバーの、平準化されたバージョンの、価格情報間での差を測定し、外為市場に先行できる能力です。先行インディケータとして解釈すると、TRIXは他の外為市場のタイミング・インディケータと組み合わせ

せて使用し、インディケータ相場のブレを抑制することが最善の使用方法です。

Typical Price

(標準価格/ティピカルプライス/Typical)

ティピカルプライスは、高値、安値および終値の平均を計算し、チャートに描画されます。

Ultimate Oscillator

(ウルティメートオシレーター/UltiOsc)

ウルティメートオシレーターは、「Avg1Len」、「Avg2Len」および「Avg3Len」の3種類の異なる設定期間における価格変動の加重合計値を取り込んで表示されます。

多くのアナリストは、ウルティメートオシレーターのダイバージェンス(逆行現象)、ならびにインディケータのトレンドのブレイクアウトが重要なシグナルであると考えています。例えば、強気のダイバージェンス(逆行現象)は、外為市場の価格は新安値に達したが、インディケータが従っていない場合に発生すると言われています。逆に、弱気のダイバージェンス(逆行現象)は、外為市場の価格は新高値に達したが、インディケータが従っていない場合に発生すると言われています。

Volatility Chaikin's

(ボラティリティチャイキン/Volatility)

ボラティリティチャイキンは、高値と安値の間の価格幅から相場のボラティリティを計算します。この式は、為替市場のトップ、またはボトムを示すために使用します。

このボラティリティの測定を解釈する方法は2つあります。1つの方法では、ボラティリティが高い場合には価格は天井圏に達し、ボラティリティが低い場合には価格は底に近づきます。

もう1つの方法では、比較的短い期間でボラティリティが上昇した場合にはボトムが近いこと、長い期間でボラティリティが下降するとトップに近づいていることを想定しています。

Weighted Close

(加重終値/WC)

加重終値は、過去の相場において最も重要な部分のみに着目し、その変化をとらえようとしたものです。そのため、重要でないと考えられた値幅での動きに対しては反応しないため、現在までのより分かりやすい形で表現します。高値、安値、終値の内、終値の数値を加重して計算する計算方法のこと。具体的には(高値+安値+終値*2)/4で計算されます。

Williams Accumulation/Distribution

(ウィリアムズAD/ウィリアムズの収束・拡散/WAD)

ウィリアムズADは、取引市場が買い手(収束)によって、または売り手(拡散)によってコントロールされているか、そして価格とアキュムレーション/ディストリビューションの間にダイバージェンス(逆行現象)があるかを判断するために使用します。

また、ウィリアムズADは、まだインディケータ新安値まで下降していない場合でも、買いを推奨します。同様に、価格が新高値を付けて、アキュムレーション/ディストリビューションインディケータが追隨していない場合でも、売りを推奨します。

ジグザグ

(Zig Zag)

ジグザグは、過去の相場において最も重要な部分のみに着目し、その変化をとらえようとしたものです。そのため、重要でないと考えられた値幅での動きに対しては反応しないため、現在までのより分かりやすい形で表現します。

また、ジグザグを利用することにより、主に最も重要な反転だけが強調表示され、見やすくなります。ジグザグ・チャートの最後の部分が、基調であるプロットの変化に基づいて変化することを考慮すると、価格が唯一の例となります。つまり、通貨の価格が変わると、インディケータの以前の値も伴って変わることとなります。ジグザグは以後の変化に基づいてその値を調整するので、価格がどのように遷移してきたかについて見抜く上で、大変有効です。

外国為替保証金取引や、CFD、デリバティブその他のレバレッジ取引には高いレベルのリスクが潜在しており、預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、全てのお客様に適している投資商品とは言えません。本内容は情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。© 2011 Global Futures & Forex, Ltd. 無断複写・複製・転載を禁ず。本内容はGFT東京支店により、

または同支店のために作成されたものです。同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして日本の金融庁に第一種金融商品取引業者登録をしており（関東財務局長（金商）第268号）、社団法人金融先物取引業協会の加盟業者です（金融先物取引業協会1520号）。<http://www.gftforex.co.jp/>